平成２２年度

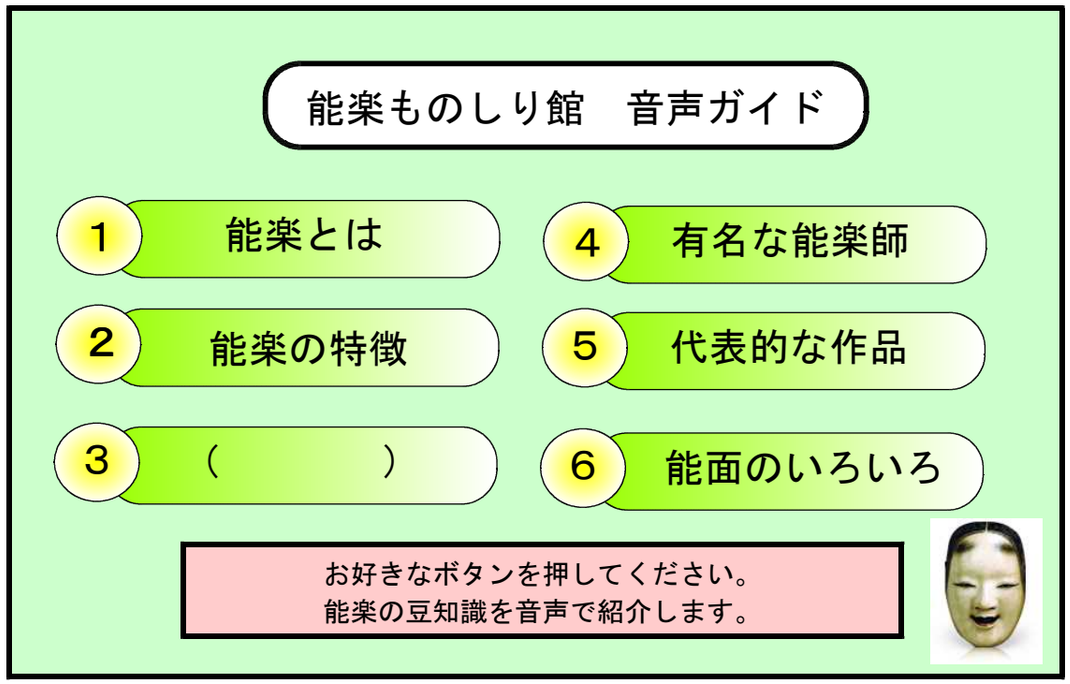
生徒用

「ゆうチャレンジ」（熊本県学力調査）

中学校　第３学年　国語

○　問題用紙は４枚，解答用紙は２枚あります。

○　下の図を見ながら，1の音声問題を聞きましょう。



学校名	

年　　組　　号	
名　前	

熊本県教育委員会

1

今聞き取ったことをもとに、次の問いに答えなさい。

(1) 音声ガイドでは「クモル」、「テル」などについて説明していましたが、これらは能楽の最大の特徴に関連した説明です。能楽の最大の特徴とはどんなことですか。

(2) 表紙にある③番のボタンのタイトルとして適切なタイトルは何でしょう。聞き取った内容をもとに書きなさい。

(3) 室町時代の能楽師、世阿弥がけいこの心構えとして残した有名な言葉は何ですか。

(4) 能楽に興味をもった山本さんがその後、現代の能楽師の方について調べてみると、幅広く活躍されている能楽師の方がたくさんいらっしゃることが分かりました。あなたが能楽師の方にお会いして質問ができるとしたら、どんな質問をしますか。聞き取った内容をもとにして、実際に話すように一文で書きなさい。

2

次の問いに答えなさい。

(1) 次の文の――線の漢字の読みがなを書きなさい。また、――線のひらがなを漢字に直しなさい。

① ひっそりと身を潜める。　② 多くの家が軒を並べている。
③ 歓喜の輪の中に加わる。　④ 意見の相違も認め合おう。
⑤ 今までの状況とはことなる。　⑥ おもむきのある絵を飾る。
⑦ 記念写真をさつえいする。　⑧ ひなん場所を確認する。

(2) 生徒会役員の本田さんは、中学校に入学してくる小学校六年生を対象とした学校説明会で、中学校の学校行事の一つを取り上げ、紹介することになりました。次の□にある文章は、その下書きの一部です。この文章を友達に見せたところ、あとの□にあるアドバイスをもらいました。――線①～③の部分をそれぞれのアドバイスに従って書き直しなさい。

①体育大会は、最も全校生徒が取り組む学校行事の中で盛り上がる行事です。全校生徒が、赤団、白団、青団の三つの団に分かれて、いろいろな種目を競います。②今年の体育大会で一番心に残っているのは、リレーの早朝練習をしました。初めはまとまりませんでしたが、③担任の先生がアドバイスをしてくれたことをきっかけにクラス全員が協力できるようになりました。

友達のアドバイス

① 「最も」という文節は、修飾される文節の近くで使った方がいいと思います。
② 主語と述語の関係に注意して、「リレーの早朝練習をしました」の部分を書き直した方がいいと思います。
③ 主語は担任の先生なので、敬語を使った方がいいと思います。

(3) 井上さんは、家に届いた荷物の伝票を見て、見やすい伝票〈A〉とそうでない伝票〈B〉があることに気が付きました。〈A〉の伝票は、〈B〉の伝票に比べてどのような点が見やすく書かれていますか。見やすく書かれている点の説明として適切なものを、次のア～オから二つ選び、記号で答えなさい。

ア 〈A〉の方が〈B〉よりも住所の区切りが良いところで改行している点。
イ 〈A〉の方が〈B〉よりも住所の字と字の間隔を広くして書いている点。
ウ 〈A〉の方が〈B〉よりも強調したい部分の文字を太字で書いている点。
エ 〈A〉の方が〈B〉よりも文字を行の下の線にそろえて書いている点。
オ 〈A〉の方が〈B〉よりも漢字と仮名を同じ大きさで書いている点。

〈A〉

お届け先	〒860-1234 熊本県火の国市ひばり町 3丁目9の1 井上 洋子 様

〈B〉

お届け先	〒860-1234 熊本県 火の国市ひばり 町 3丁目 9の1 井上洋子 様

3

森山さんの学校の図書館に、新しい本が入りました。次にあげる**〈文章A〉**は、その中の一冊で、夏目漱石が明治時代に書いた「夢十夜」という小説の一部です。この小説では、主人公が夢の中で運慶が仁王を彫っているという評判を聞き、見物に行く場面から始まります。次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

〈文章A〉

運慶は見物人の評判には*委細頓着なく*鑿と*槌を動かしている。いっこう振り向きもしない。高い所に乗って、仁王の顔のあたりをしきりに彫り抜いてゆく。

運慶は頭に小さい*烏帽子のようなものを乗せて、*素袍だかなんだかわからない大きな袖を背中でくくっている。その様子がいかにも古くさい。わいわい言ってる見物人とはa*いまじぶん*まるでつり合いがとれないようである。自分はどうして今時分まで運慶が生きているのかなと思った。どうもふしぎなことがあるものだと考えながら、やはり立って見ていた。

しかし運慶のほうではふしぎとも*奇体ともとんと感じえない様子で一生懸命に彫っている。仰向いてこの態度を眺めていた一人の若い男が、自分の方を振り向いて、

「①さすがは運慶だな。眼中に我々なしだ。天下の英雄はただ仁王と我とあるのみという態度だ。あっぱれだ。」と言ってほめだした。

自分はこのことばをおもしろいと思った。それでちょっと若い男の方を見ると、若い男は、すかさず、

「あの鑿と槌の使い方を見たまえ。*大自在の妙境に達している。」と言った。

運慶は今太い眉を一寸の高さに横へ彫り抜いて、鑿の歯をたてに返すやいなや*斜に、上から槌を打ち下ろした。堅い木を一刻みに削って、厚い木くずが槌の声に応じて飛んだと思ったら、小鼻のおっ開いた怒り鼻の側面がたちまち浮きあがってきた。その刀の入れ方がいかにも無遠慮であった。そうして少しも*疑念をさしはさんでおらんように見えた。

「よくああ無造作に鑿を使って、思うような眉や鼻ができるものだな。」と自分はあんまり感心したから独り言のように言った。するとさっきの若い男が、

「なに、あれは眉や鼻を鑿で作るんじゃない。あのとおりの眉や鼻が木の下に埋まっているのを、鑿と槌の力で掘り出すまでだ。②まるで土の中から石を掘り出すようなものだから決してまちがうはずはない。」と言った。

自分はこのとき初めて彫刻とはそんなものかと思いだした。果たしてそうならだれにでもできることだと思いだした。それで急に自分も仁王が彫ってみたくなったから見物をやめてさっそく家へ帰った。

道具箱から鑿と金槌を持ち出して、裏へ出てみると、せんだっての暴風で倒れた樫を、薪にするつもりで、*木挽きに挽かせた手ごろなやつが、たくさん積んであった。

自分はいちばん大きいのを選んで、勢いよく彫り始めてみたが、不幸にして、仁王は見当たらなかった。その次のにも運悪く掘り当てることができなかった。三番めのにも仁王はいなかった。自分は積んである薪を片っ端から彫ってみたが、どれもこれも仁王を隠しているのはなかった。ついに明治の木にはとうてい仁王は埋まっていないものだと悟った。それでb運慶が今日まで生きている理由もほぼわかった。

＊**運慶**＝鎌倉時代を代表する仏像作りの職人。
＊**仁王**＝寺の門の左右に置いた一対の神像。
＊**委細頓着なく**＝事情がどうでも気にせず。
＊**鑿**＝穴をあけたり、溝を掘ったりする工具。
＊**槌**＝物を打ちたたく工具。ハンマー。
＊**烏帽子**＝元服した男子の袋状のかぶりもの。
＊**素袍**＝麻の素材でできた武士の礼服。
＊**奇体**＝風変わりな様子。
＊**大自在の妙境**＝全く自由な心の状態。
＊**斜**＝ななめ。
＊**疑念**＝疑いの心。
＊**木挽き**＝木材をのこぎりで切る職業の人。

（運慶が快慶と合作した東大寺南大門の金剛力士像）

(1)　図書委員の森山さんは、この小説を読み、とても面白かったので、みんなにも紹介したいと思いました。そこで、おすすめの一冊として図書館に掲示パネルを作ることにしました。作りながら、疑問に思う点が出てきたので、同じ図書委員の西本さんに尋ねました。次は、森山さんと西本さんの会話です。次の（　ア　）（　イ　）（　ウ　）に適切な言葉を入れなさい。

森山さん…　「さすがは運慶だな。」（―― 線①）とあるけど、若い男は、運慶のどんな様子を「さすが」とほめているのかな。
西本さん…　すぐ後に、「眼中に我々なしだ。」と言っているから、分かりやすく言いかえれば、運慶が（　ア　）様子をほめているんだと思うよ。
森山さん…　「まるで土の中から石を掘り出すようなもの」（―― 線②）という表現は面白いと思ったよ。なぜ若い男は、眉や鼻を「彫る」のではなく、「掘り出す」と言ったのかな。
西本さん…　それは、運慶が仁王を掘っている、つまり、木から取り出していると思ったからじゃないかと思うよ。
森山さん…　なるほど。運慶にとっては、仁王は（　イ　）状態なんだね。だから、運慶の動作が無造作に木を「掘り出し」ているように見えたんだね。もう一つ、おもしろいと思ったのは、主人公である「自分」の考えが変わるところだな。
西本さん…　そこはおもしろいよね。鎌倉時代に生きた運慶が、夢の中では明治時代にいることを、はじめは「どうして今時分まで運慶が生きているのかな」（〰〰 線a）と不思議に思っていたのに、後では「運慶が今日まで生きている理由もほぼわかった。」（〰〰 線b）と思っているね。どうしてこのように考え方が変わったんだろう。
森山さん…　仁王を掘り出すだけならば、「自分」にも仁王を彫ることができると思って試したけれど、仁王を掘り当てることができなかったという体験をしたからだと思うよ。
西本さん…　「運慶が今日まで生きている理由」とは、具体的にどんなことを指しているのかな。
森山さん…　それは、（　ウ　）ということだと思うよ。

次にあげる〈文章B〉は、作家の村上春樹さんが短編集のあとがきとして書いた文章の一部です。

〈文章B〉

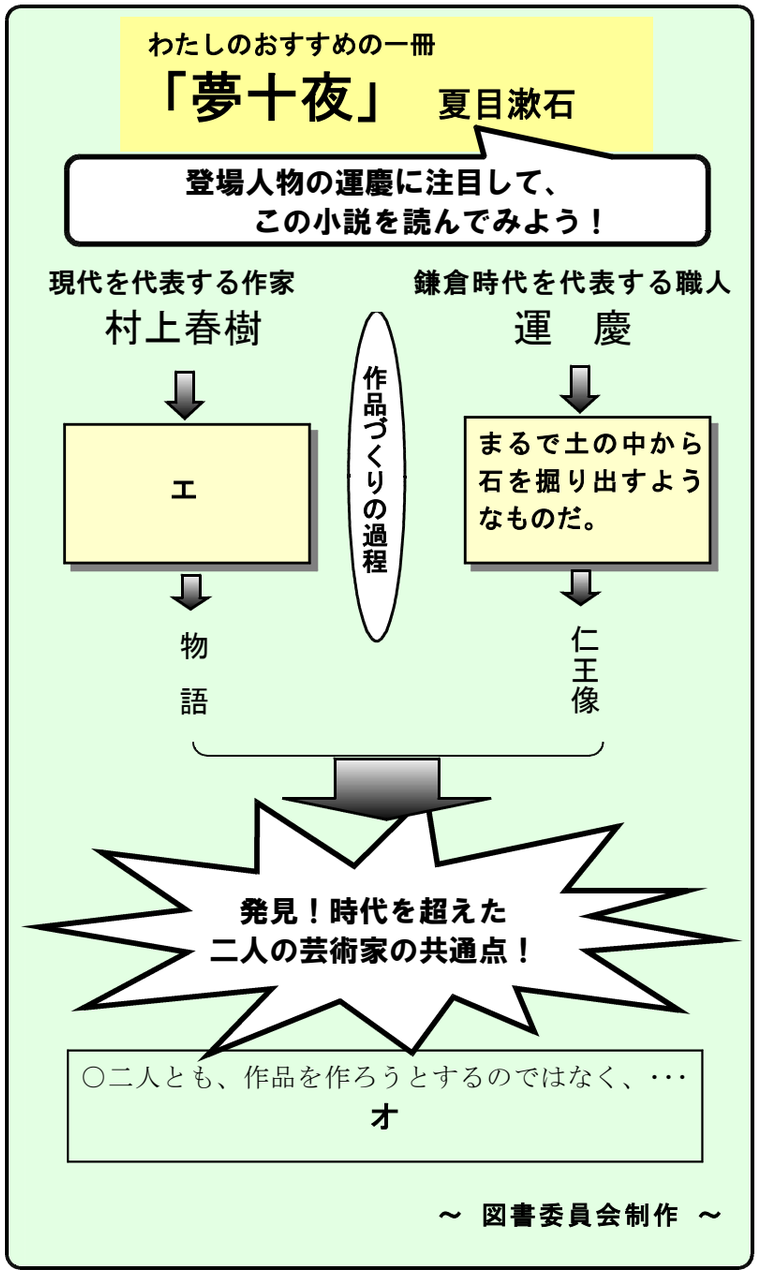
僕としては、もともと*ファンタジーや童話を書こうと思ってこの話を書き始めたわけではない。あるひとつのイメージを設定し、その流れを追いかけていくと、この物語は必然的にそのような外殻を身につけてしまうことになったわけだ。物語の流れを追いかけていくことは、森の中で一羽の蝶を追いかけるのに似ている。どこに行くかを選ぶのは僕ではない。行き先は蝶にしかわからない。

（　中略　）

僕はとても楽しんでその蝶を追っていたということになる。それは追いかけていくのがたやすい蝶なのだ。一筆書きのようにさらさらと書いて、とくにぎりぎりの推敲もせず、そのまま軽い気持ちで発表したものが多かったような気がする。それはたぶんこのようなたちの物語が、僕の心の中にあるどこかの部分を自然に鳴らせる要素をもっていたからだと思う。僕はその共鳴ぶりを愉しむことができたわけだ。

＊ファンタジー…空想の物語。　＊外殻…外側にある殻。

(2)　森山さんと西本さんは、「夢十夜」に描かれた運慶と村上春樹さんの作品づくりには、共通点があることを発見しました。そこで、それらをまとめ、見る人が本に興味をもつようなパネルづくりに取りかかりました。次の［エ］、［オ］に適切な言葉を入れ、パネルを完成させなさい。



4 大森さんは、今年スペースシャトルで宇宙へ行った宇宙飛行士の山崎直子（やまざきなおこ）さんに関連した資料を集め、資料の下にメモをしました。次の資料を読んで、あとの問いに答えなさい。

〈資料Ａ〉スペースシャトルに関連した資料

（野本陽代「ハッブル望遠鏡が見た宇宙」による。）

〈メモ〉

天文学とはどのような学問か

⇐

〈第一段落〉

① 天文学はすべての科学のなかでもっとも魅力的な学問

○人間の存在に関わるもっとも基本的な問題の答えを探る

⇐

〈第二段落〉

○（　　**ア**　　）

② 地球の大気

○生命を維持するためには欠かすことができない毛布のような役割

⇔

○天文学者にとっては、（　　**イ**　　）という面

③ 一九七〇年代

ＮＡＳＡのスペースシャトル計画

⇐

○大望遠鏡を地球周回軌道上に置く

○定期的な点検・修理（維持・補修）

○（　　**ウ**　　）

⇐

ハッブル宇宙望遠鏡の実現

(1) **〈資料Ａ〉**を読んで、――線①～③に関する**〈メモ〉**について、次の問いに答えなさい。

① 「天文学とはどのような学問か」という疑問の答え（　**ア**　）に当てはまる内容を、**〈資料Ａ〉**の文中の言葉を使ってまとめなさい。

② 「地球の大気」のもう一つの面について、（　**イ**　）に当てはまる単語を書きなさい。

③ 「スペースシャトル計画」がハッブル宇宙望遠鏡に果たす役割のうち、（　**ウ**　）に当てはまる役割を**〈資料Ａ〉**の文中の言葉を使って書きなさい。

〈資料Ｂ〉宇宙飛行士の山崎直子さんが夢について語っている文章

（「山崎直子インタビュー」による。）

(2) **〈資料Ｂ〉**を参考にして、「自分の夢を実現するには」というテーマで、あなたの考えや思いを、次の条件に合わせて書きなさい。

【条件】

○ 二段落構成とし、一段落目には、山崎さんの夢に対する思いを、二段落目には、自分の夢の実現について具体的に書くこと。

○ 百六十字以上二百字以内で書くこと。（題名や名前は書きません。）

○ 読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。